

## 社会教育委員会 会議録

	担当課	地域学校教育課	記録者	前田 良平			
会議等の名称	令和5年度 第2回 社会教育委員会						
日時・場所	令和5年9月1日(金) 14:00~16:00 第2庁舎 3階 会議室1						
出席者	委員	田端 和彦 委員長 山之内 一 委員 坂口 正信 委員 大辻 由紀子 委員 櫻井 美也子 委員 中村 まさみ 委員 西野 直樹 委員					
	事務局	平郡教育長 野村教育次長 河合課長 前田					
町長	副町長	教育長	部長	次長	課長	課長補佐	係
/	/						
事務局	<p>&lt;開会&gt;</p> <p>失礼します。暑さ厳しい中、ご参集いただきましてありがとうございます。ただいまより、令和5年度第2回播磨町社会教育委員会を開会いたします。よろしく願いいたします。開会にあたりまして、平郡教育長よりごあいさつ申し上げます。</p>						
教育長	<p>&lt;教育長あいさつ&gt;</p> <p>皆さんこんにちは。まだまだ暑い日が続いておりますが、朝夕は少し涼しい風を感じるようになってきました。もうしばらくすればいい季節がやってきて、日本の四季でも一番いい季節ですが、短くなってきたような、そんな感じがいたします。さて、第1回に引き続き第2回社会教育委員会にお忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。前回は播磨町の教育、社会教育行政、あるいは生涯学習、広範にわたってそれぞれの立場で貴重なご意見をいただきました。そういう中で第2回は、学校と地域の連携・協働について、それぞれの立場で忌憚のないご意見を頂戴して今後の教育行政に反映させていきたいと考えております。限られた時間かと思いますが、実りある議論をしてみたいと思いますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>						
事務局	<p>それでは協議事項に入る前に、大辻委員さんから報告があります。</p>						

大辻委員	<p>&lt;大辻委員報告&gt;</p>
事務局	<p>それではこれより協議事項に移ります。第1回の社会教育委員会では、皆様それぞれのお立場から感じられている播磨町の生涯学習、社会教育行政における現状と課題についてご発言いただき、これから協議すべき大きなテーマを絞り込んでいただきました。その中で、学校部活動の地域移行や、学校運営協議会の推進など、学校と地域の連携の重要性が議論の中心となり、学校と地域のよりよい連携のあり方について検討を進めていくことが大きなテーマになったかと思えます。本日は、播磨町における学校と地域の連携の現状をもう一度把握した上で、今求められる連携のあり方について、さらに深く協議していただきたいと思えます。本日もそれぞれのお立場から忌憚のないご意見をお願いいたします。</p> <p>それでは、ここからの進行は田端委員長にお願いいたします。</p>
委員長	<p>&lt;田端委員長&gt;</p> <p>大辻様ありがとうございました。大変面白い、わかりやすいご説明でございました。特に社会教育委員のやるべきことは何かという中で、地域との関わりでご自身がされている居場所作りとの関係もあって、そうした情報収集に努められたということ、それから実際ワークショップをされて多くの方への研修機会というものを作っていただいたということで、感謝申し上げたいと思えます。</p> <p>家庭も本当に景気の問題もありますけども、疲弊をしている状況であり、学校も先生方も手一杯の状況の中で、地域がどのように学校を支えていくのかっていうことは、改めて考えていかなきゃいけないなというふうに思っているところでございます。</p> <p>本日は前回の議論を踏まえまして、大きなテーマであります学校と地域のよりよい連携のあり方ということを考えていきたいと思えます。忌憚のないご意見を賜ればというふうに思っております。</p> <p>そうしましたら協議事項の①、学校と地域のよりよい連携のあり方について、まずは事務局の方から資料に基づきご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>&lt;事務局説明①&gt;</p>
委員長	<p>&lt;田端委員長&gt;</p> <p>そうしましたら、今のご説明を踏まえまして、ご質問、ご意見、課題かなと思われる点など、ご議論いただければと思えます。</p>

	<p>先ほども申しましたように、これはあくまでも行政主体の事業でございますので、民間とも連動できるのではないかとか、もっとこういうふうなことをすればより効果があるのではないかとか、こういうところをどう調整するのかといったことも含めてご提案いただくと助かります。そうしましたら挙手の上ご発言いただければと思います。</p>
山之内委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校にもっと地域の人が入って活動することはできないか。空き教室、運動場、体育館など。</li> <li>・学校の中に公民館があるイメージ。</li> <li>・中庭に農業クラブがあるのもおもしろい。</li> <li>・学校を開放することで、新しい人材発掘につながるかもしれない。</li> </ul>
西野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援、部活動支援という形で主に地域の方に支援してもらっている。</li> <li>・学校の枠を外して、地域と連携するのは教師にとって難しい問題。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪教育大学附属小学校の事件以来、セキュリティ面について強く言われ、学校は閉じられてしまった。そこから学校を開いていこうとする方向は、本来あるべき姿ではあるが、そのためには教職員の意識改革がどうしても必要になってくる。</li> </ul>
野村次長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度に向けて、学校施設開放の新しい考え方、仕組みづくりを検討している。</li> <li>・学校は住民のためのものという感覚で、有効活用できるようにしたい。</li> </ul>
西野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蓮池小学校に町民が使用できる会議室がある。ホテルの会が会議をしている。県民交流広場事業の活用。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を地域拠点にしていくことを考える必要がある。</li> <li>・学校は地域の人が作ってきた歴史が日本にはある。元々、学校は住民のものである。そういう考え方からも、学校を地域に開放していくべきである。</li> </ul>
西野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練を地域とともに実施し、生徒に考えさせる活動を検討している。</li> </ul>
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの人に情報を届けることが大切。情報を知らない人が多い。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心が低い人へ、いかに届けるかが課題。</li> </ul>

坂口委員	・防災無線は活用できないか。田舎の町では有効的に機能している。
櫻井委員	・部活動で、芸術・文化系のクラブが少ない。
西野委員	・茶道や生け花などの活動を取り入れたいと検討している。
櫻井委員	・10/29の大茶会のボランティアをしてもらえれば、きっかけになるのではないか。
西野委員	・文化的な活動の包括的な文化活動クラブの立ち上げを今後は検討したい。
櫻井委員	・三味線やお琴など、出前授業をすることもできる。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が場所を提供し、地域の住民が出向くという仕組みができればいい。</li> <li>・ボランティアには限界がある。交通費や有償ボランティアなど、ルールを作っていかなければならない。</li> <li>・廃寺などでいらなくなった太鼓を学校に寄贈したいが、学校は簡単に受け入れられないといった話を聞いたことがある。寄付の制度も見直していくべきである。</li> </ul>
野村次長	・複合的なクラブを今後は検討したい。
山之内委員	・発表する場を確保しなければならない。
櫻井委員	・文化祭が活用できる。最近は学校関係の参加がない。
西野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動は過熱しすぎてしまった。教師はもっと教育活動に専念しなければならない。</li> <li>・地域クラブとして、今後は地域の方に、まずは子どもと一緒に活動するぐらいの感覚で関わってもらいたい。</li> </ul>
大辻委員	・ひょうごがんばり学びタイムについて教えてほしい。
河合課長	・対象学年を決めて、各小学校において、基礎学力の向上を目標に実施している。

委員長	続いて協議事項②の説明を事務局よりお願いします。
事務局	<事務局説明②>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の先生は、地域にとって非常に重要な資源である。</li> <li>・高校はもっと地域に開放するべきであると個人的に考えている。</li> <li>・学校を学びの拠点、生涯学習の拠点にできればいい。</li> </ul>
西野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで教師と子どもを、部活動で縛り付けてきた。今後は地域へ出ていく仕組みを作りたい。</li> <li>・子どもたちが地域に出て、その子どもが町のリーダーとなり、また地域で活動するといった好循環が期待できる。</li> <li>・教師は地域から評価されることに抵抗を感じている。教師が地域へ出ていくのは非常に難しいかもしれない。</li> </ul>
山之内委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちにはボランティアとしてどんどんいろんな場に参加してほしいと思う。</li> <li>・中学生のボランティア活動に教師の引率は必要か。</li> <li>・もっと自由な参加にして促してほしい。</li> </ul>
西野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保険の問題がある。</li> <li>・部活動が地域展開されることで、教師にも余裕がうまれると思う。</li> <li>・もっと教師も地域へ出ていくようにしたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は地域における文化的な記録の保存、活用の拠り所としての機能がある。</li> </ul>
大辻委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の図書室をもっと有効的に活用できないか。</li> <li>・中学生はあまり図書室を利用できていない。</li> </ul>
西野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノ一部活デーに図書室を開放するなど、図書室に利用促進を中学校でも検討したい。</li> </ul>
大辻委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書クラブのような活動があるのもいい。</li> </ul>

委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室も地域に開放するという考え方もある。</li> <li>・リカレント教育の場としての学校の図書室。</li> </ul>
野村次長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方が図書室を運営するという仕組みもあるかもしれない。</li> </ul>
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三世代交流会を婦人会で実施した。</li> <li>・幼児にも親御さんにも喜ばれた。お母さんたちも知らない遊びがあって、地域の方から教えてもらって楽しんでいた。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を通して親世代を変えることもできる。そのために学校制度そのものを変えていく。地域にとって、学校の役割は非常に大きい。</li> </ul>
事務局	<p>&lt;事務局連絡&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東播磨・北播磨地区社会教育・公民館研究大会について</li> <li>・兵庫県社会教育研究大会について</li> <li>・第45回全国公民館研究集会兵庫大会について</li> <li>・第3回社会教育委員会について</li> </ul>
野村次長	<p>&lt;閉会&gt;</p> <p>&lt;野村次長あいさつ&gt;</p> <p>1時間余りの間、どうもありがとうございました。</p> <p>中身が非常に濃い、意義ある話を聞かせていただいて、それをもとにまた今後も頑張っていきたいと思います。</p> <p>また次回も今日いただいた意見をもとに、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>今日はどうもありがとうございました。</p>